

センスを鍛えるインテリアマガジン

PLUS 1 LIVING

http://www.plus1web.com

プラスワン
リビング

No.42

4
月号

定価
1400yen
税込み

ご愛読感謝
プレゼント
オリジナル
カッティングボードを
100名に
P187をご覧ください。

特集

マンション、一戸建て

インテリアにこだわった

幸せリフォーム

まねしたいインテリアは
海外にあった!

PARIS
IRELAND
NEW ZEALAND

実力派ぞろいの、
第7回
実例大賞、受賞者発表!



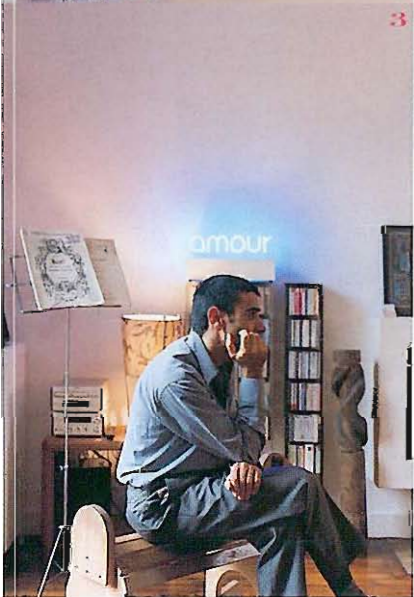
デザイン家具に自作オブジェをミックス。 飾って使って楽しむインテリア。

Jean-Baptiste SIBERTIN-BLANC
/ジョン=バチスト・シベルタン=ブランさん

に、日本人の奥さまの由季子さんと、6才のプロスペールくん、3才のもみぢちゃん、4人で暮らしています。ここに引っ越してきたのは

華やかなアールヌーボーやアールデコ調のガラス花器やオブジェで有名なフランスの老舗「ドーム(Dôme)」のそのアートディレクターと、フリーランスのインテリアデザイナーという2つの顔をもつジョン=バチストさん。パリ郊外の住宅街にある1920年代に建てられた一戸建て

目をひく木馬は20年前、高級家具職人をしていたころのジョン=バチストさんの作品。後ろに見える「amour」の青いネオンのランプは、「ドーム」のブティックのウインドウに飾られていたものです。



1 1920年代の家。500㎡もある庭はこれから手を入れていく予定。ジョン=バチストさんの作品を紹介するパーティーでは、由季子さんが日本料理でもてなしました。2 サロンのユニークな鏡を使った家族写真。じっとしていないプロスペールくんを入れるのは至難の業でした。3 「職人の技があるアートに心ひかれる」というジョン=バチストさん。www.jbsb.net/がフリーデザイナーとしてのサイト(3月開始予定)。



キッチンの隣にある小さなダイニング。丸テーブルはフランスでも人気のサーリーネの「Tulipe」、色違いの椅子はヤコブセンのセブンチェア。



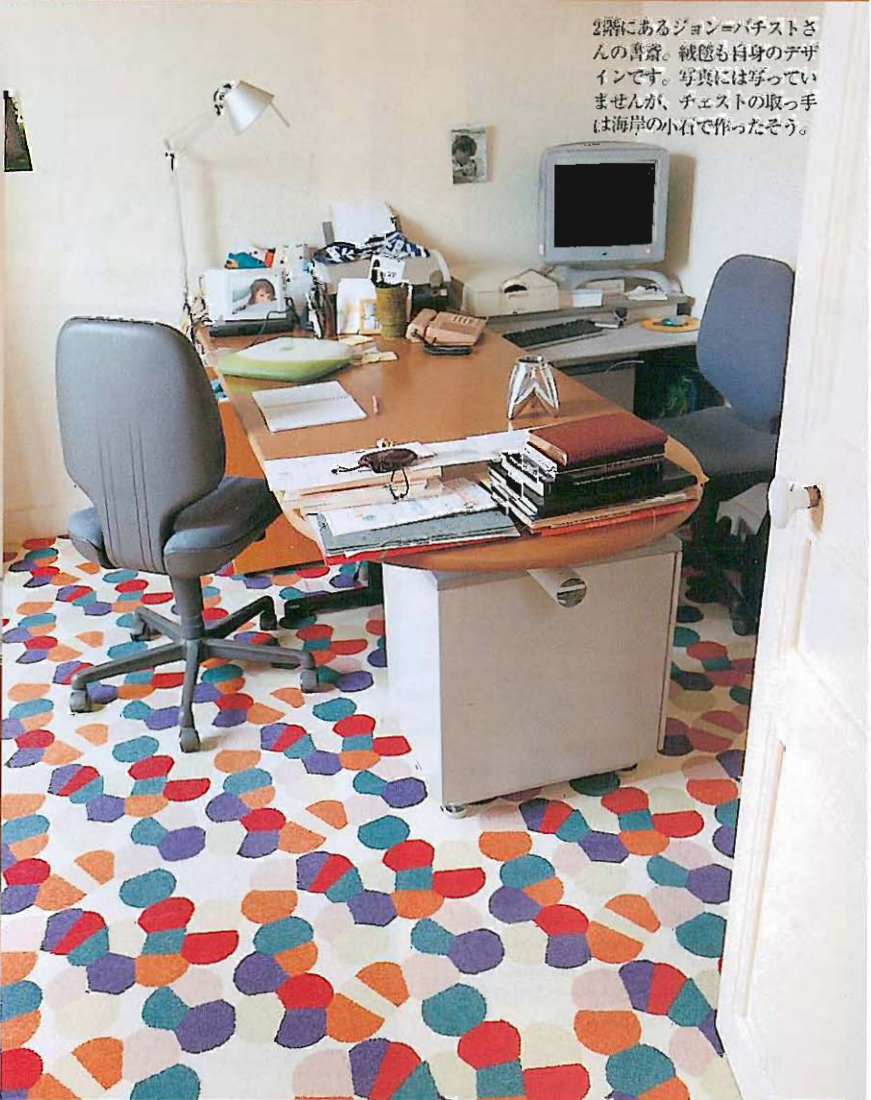
ダイニングテーブルは1950年代のジョン・ブルベのデザイン。メタル脚の逆さVが特徴です。椅子はヤコブセンのセブンチェアでそろえています。木製チェアはインド洋のコモロ諸島で。



狭かったキッチンは広々とした間取りに。「IKEA」でそろえたキャビネットの素材は木とステンレス、壁はオリーブ色に決め、シンプルナチュラルな雰囲気。



2階にあるジョン・バチストさんの書斎。絨毯も自身のデザインです。写真には写っていませんが、チェストの取っ手は海岸の小石で作ったそう。





ジョン＝バチストさんが「ドーム」用にデザインした「Rototondo」。フランス北東部のナンシーの工場で職人たちが製作するクリスタル製品は、ひとつひとつ微妙に色が異なります。

約2年前。1階と2階、それぞれ65㎡ある現在のお宅を購入した際、間取り変更などの大改造をしました。しかも2カ月というスピードでやり遂げたので、「みんなにすごいね、と言われます」と由季子さん。工事に時間がかかるのは当たり前、施工主が毎日、現場に行き、工事を監督するのがフランスにおける常識だからです。

玄関を入ると庭側にまでまっすぐ伸びた廊下、その右側が広いリビング・ダイニングになっています。廊下と部屋を隔っていた壁は取り壊し、一部の壁で仕切るだけにしました。廊下の突き当たりは昔、トイレだったのだとか。今ではキッチンとサロン（リビングルーム）を結ぶスペースになっています。チェストを置き、その上にすっきりと飾られた器と花が印象的でした。

1920年代の建築の雰囲気を残した家に、40〜50年代のデザ

イン家具、照明器具や装飾オブジェを配したスタイルに、ジョン＝バチストさんのセンスがあらわれています。さらに、そこにご自身が高級家具職人兼デザイナーだったころの作品と、現在のモダンデザインの作品を加えています。ところどころに置いた木製のプリミティブアートは、ご夫妻の共通の趣味である第三世界の国々に旅行したときに見つけたもの。

ジョン＝バチストさんは「デコレーションのアイデアはフランス・ジャポネカナ」といいます。その理由は、便利な日本の引き戸をとり入れたり、壁などの装飾を最小限に抑えたいという由季子さんの好みを尊重したからです。こうした独自のミックススタイルも「わが家」のインテリアとしてすっきりなじみ、おふたりがそれを楽しんでいる様子が素敵です。円満な日仏コラボレーション、といえそうです。



折り紙とレゴで遊ぶのが大好きなブロスベールくん。今の部屋の場所は自分で選びました。照明はガラスを銀でコーティングした1910年頃のプロカント品です。

もみじちゃんの部屋はフューシャピンクがアクセント。ランプシェードは、スタンドグラス作りが趣味の由季子さんのお母さまが、日本の古いガラスを使って製作したもの。

